

▼東京ユニバーサル・フィルハーモニー

管弦楽団 第28回定期演奏会

《イタリア・オペラ大作作曲家達の

もう一つの顔》と題し、プッチーニ

の「交響的前奏曲」と「菊の花」、ヴ

エルディ及びロツシーニの「スター

バト・マーテル」二曲を演奏。指揮

三石精一、独唱S清水知子、Ms菅有

美子、T大澤一彰、B久保和範、合

唱同フィル混声合唱団。

年僅か二回の同フィルの定期は、

不動の音楽監督三石の下での妥協の

ない徹底した準備を踏まえた入魂の

演奏で名高い。当夜のステージに、

昨今稀なこうした音楽作りの結実の

一端を見る思いがした。

最後を飾ったロツシーニの「スタ

ートバト・マーテル」の第九曲、及び

これに続く圧倒的な終曲に至り、三

石は躊躇せず全奏者に限界への果敢

な挑戦を促す。すると彼らは驚くべ

き集中と至誠でこの全幅の信頼に応

え、見事別次元への飛翔を果たすの

である。音楽は俄かに日映い輝きを

放って燃え上がり、啓示のように鳴

り響く。まさに戦慄のひとときだっ

た。(11月21日、東京芸術劇場)

(中野重夫)